

原発問題を考えよう！

福島原発事故から6ヶ月、事故は収束に向かっているのか？

福島原発事故は現在も進行中？

3月11日に発生した福島第一原発事故から6ヶ月経ちました。あれだけ連日長時間にわたって伝えられていた原発事故関連のニュースも次第に時間が短くなり、最近では福島原発事故の状況があまり伝わってきません。果たして、事故は収束に向かっているのでしょうか？ 原発事故の対処三原則「止める、冷やす、閉じ込める」が出来て、初めて収束に向かうといえますが、残念ながら福島原発事故は「止める」の次の「冷やす」がなかなか進んでいない状況です。汚染水の浄化循環が出来るようになったとは言え、数々の問題を抱えており、現段階においても、冷却水の漏れ箇所が特定されておらず、放射性物質を「閉じ込める」ところまでは至っていないようです。つまり、現在も放射性物質が漏れ、未来への負の遺産を生み出し続けているのです。

JR東海労そして私たち大阪修繕車両所分会は、これ以上の未来への負の遺産を生み出す可能性をなくすために脱原発・反原発の闘いを進めていますが、ここで、改めて原発を知り、問題点を再確認することで脱原発・反原発の闘いを進めていきたいと思えます。

老朽化した原発は直ちに廃炉せよ！！

日本で最初の原子力発電が行われたのは1963年10月26日、茨城県東海村に建設された動力試験炉(JPRD)が初発電を行いました。これに続き日本に初めての商用原子力発電は日本原子力発電が東海村に建設した東海発電所で、1965年5月に初臨界、1966年7月に営業運転を開始し、1998年に営業運転を停止しました。現在は廃炉解体プロジェクトが進められています。続いて日本原子力発電の敦賀原発の1号機が1970年に営業運転、また関西電力の美浜原発1号機も1970年に営業運転を始めており、両方とも40年を超えて運転されています。ちなみに福島第一発電所の事故を起こした1号機(1971年)、2号機(1974年)、3号機(1976年)、4号機(1978年)に営業運転を始めており、いずれもかなり古い原発です。

原子炉の寿命は、諸説いろいろあり、たとえば独立行政法人原子力安全基盤機構のHPを見ると「寿命は『ある』とも言えるし『ない』とも言える」というような東大教授の話もありますが、概ね経済性などでだいたい40年くらいと言われていています。ところが、敦賀原発1号機は2009年12月に廃炉になる予定でしたが、新原子炉の設置が遅れたことから老朽化を踏まえた保守管理方針を策定した結果、経済産業省原子力安全・保安院が2016年までの延長運転(運転継続)を認め、現在準備が進められています。皆さん、とんでもないことだと思いませんか？

次の原子炉ができないから寿命を延ばすというのです。果たして保守管理を徹底したとしても老朽化した原子炉の安全性が保証できるのでしょうか？ しかもあの「やらせ問題」の原子力安全・保安委が認めたとして寿命を大幅に伸ばそうというのです。とても信用できるものではありません。

明日の日本のためにも原発問題を考え、行動しましょう！